

原著 (Article)

女子中高生におけるソーシャルメディア利用と個人情報公開の関係

Relationship between Social Media Utilization
and Disclosure of Personal Information
in Female Junior and Senior High School Students

深谷 和義
FUKAYA, Kazuyoshi*

江端 沙織
EBATA, Saori†

摘 要

インターネット利用が一般的となり、その中で普及してきたソーシャルメディアによる個人情報流出が問題となっている。そこで、情報流出が多い傾向にあるとされている女子中高生を対象に、ソーシャルメディア利用と個人情報公開の関係を調べた。その結果、利用ソーシャルメディア数と実際に公開している個人情報数との相関係数は、約 0.63 で中程度の正の相関があった。一方、利用ソーシャルメディア数と公開することに抵抗のある個人情報数との相関係数では、約 -0.28 で弱い負の相関しかなかった。したがって、現状でソーシャルメディアを利用していない女子中高生であっても、個人情報流出防止の意識を与えるための情報モラル教育が必要だといえる。

キーワード：情報モラル、ソーシャルメディア、個人情報、情報流出、女子中高生

Key words : information moral, social media, personal information, information leak,

female junior and senior high school students

1. はじめに

近年、各家庭に複数台のパソコンや一人 1 台以上の携帯電話を所有することが当たり前になった。これらの機器を使ったインターネットの利用がとても身近になり、その利用率が非常に高まっている。総務省の情報通信白書 [1] によると、平成 24 年末のインターネットの利用者数は 9,652 万人であり、人口普及率は 79.5% となった。また、個人の世代別インターネット利用率において、13~49 歳の間では約 95% 以上であり、幅広い世代でインターネットが利用されている。特に、中高生が含まれる 13~19 歳では 97.2% で、20~29 歳と並んで全世代中最も利用率が高くなっている。

インターネットの普及とともに、個人情報流出が大きな問題となっており、個人情報の保護が重要になっている。「個人情報の保護に関する法律 [2]」によると、「個人情報とは、生存する個人に関する情報であって、当該情報に含まれる氏名、生年月日その他の記述等により特定の個人を識別することができるものをいう」となってい

*相山女学園大学教育学部

†相山女学園大学教育学部 (2013 年 3 月卒業)

る。個人情報には、氏名、住所、性別、生年月日、電話番号、職業、年収、家族構成、顔写真などが該当する。なお、一般的にはこれらのうち二つ以上が結合されたことにより個人を特定できるものも含む。

インターネット上での個人情報流出の原因はいくつかある。まず、個人情報の発信者で分けると、個人情報を登録してある企業から流出する場合と本人が自ら流出する場合がある。また、ウイルスや遠隔からの攻撃などによって盗まれる場合と本人の不注意や軽率さのために発信してしまう場合がある。

自分で個人情報を発信するのに、SNS やブログなどのソーシャルメディアを使うことが多い。佐藤ほかは、実際にブログ記事を調査・分析することにより、現状のブログにおいて個人情報の露出状況を明らかにしている [3]。ここでは、学生層（中高生）と一般層での情報流出状況の比較から、一般層に比べて学生層の方が情報流出が多いことを示している。また、性別での比較では、男子より女子の方が情報流出が多い傾向にあると述べている。

北野ほかは、意図しない情報漏えいを防ぐために、SNS における個人情報の流出保護システムを検討している [4]。しかし、ソーシャルメディアを使い始めた中高生に対して、個人情報の適切な扱い方を身に付けさせるために、個人情報の重要性を含めた情報モラル教育が必要である。

石本・藤村はソーシャルメディア利用者に対して個人情報流出についての意識を調査している [5]。ここでは、全体の傾向や個別の意見を議論の対象としているが、個人情報流出についての意識は、ソーシャルメディアの利用状況によって異なる可能性がある。

そこで、本研究では、ソーシャルメディア利用状況や個人情報公開に関するアンケート調査を行い、ソーシャルメディアの利用率と個人情報流出の危険に対する意識との関係を調査する。その結果から、個人情報に関する情報モラル教育の対象者をどのように考えるべきかを検討する。対象は、個人情報流出が多い傾向にあるとされている女子中高生とする。

以下では、2 章で、本研究で行ったインターネット及びソーシャルメディアに関する調査方法を説明する。次に、3 章では調査したアンケート内容を述べ、4 章で結果と考察を示す。最後に、5 章で本研究の結びと今後の課題を述べる。

2. 調査方法

調査では、まず、対象とする女子中高生のインターネットの利用状況や利用目的を確認することとした。その上で、ソーシャルメディア利用状況と個人情報公開に関する意識との関係等を調査した。調査はすべてアンケートにより実施した。なお、一度のアンケートにより、すべての項目を調査した。

アンケートの対象は、私立の女子中学生と女子高校生で、各 2 クラスの生徒である。

クラスごとでアンケート用紙に直接回答を記入してもらう方法で調査した。それぞれの校種の間層とするため、中高生ともに2年生を対象とし、時期は2012年9～10月に実施した。アンケートの対象人数は中学生が68人、高校生が74人の合計142人であった。

3. アンケート内容

インターネット利用状況では、携帯電話とパソコンによる利用時間を平日・休日別でそれぞれ聞いている。また、インターネット利用目的、利用しているソーシャルメディア、個人情報で実際に公開しているもの、公開することに対しての抵抗があるものを質問項目とした。更に、個人情報保護のための手段の状況を聞いている。

それぞれの質問は、回答のしやすさを考慮して、選択式とした。但し、一部の質問で「その他」を選んだ場合のみ具体的な記述を求めた。

4. 結果と考察

4-1. インターネット利用状況

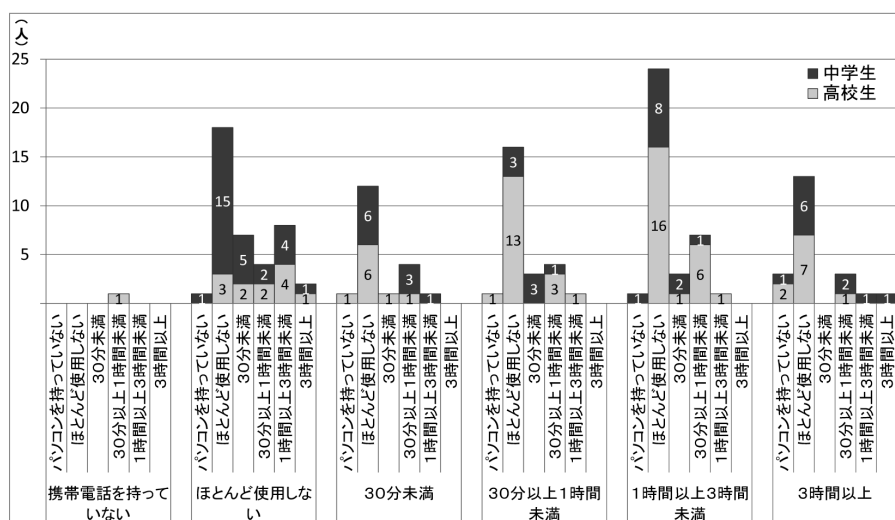
携帯電話及びパソコンを使ったインターネットの利用時間別の人数を図1に示す。図1(a)は平日の1日当たりの利用時間別、図1(b)は休日の1日当たりの利用時間別の人数である。携帯電話の平均利用時間（持っていないを含む）ごとに、パソコンの平均利用時間（持っていないを含む）に分けて、142人のデータを棒グラフで示している。なお、各グラフは、中学生と高校生活を積み上げで表しており、グラフ内の数値はそれぞれの人数を示している。これは、以降のグラフも同様である。

携帯電話とパソコンのいずれも「持っていない」または「ほとんど使用しない」と回答した生徒は、合わせて平日は20人（中学生16人、高校生4人）で全体の14.1%、休日は14人（中学生10人、高校生4人）で全体の9.9%と少数である。それ以外の多くの生徒が日常的にインターネットを利用していることになる。特に、高校生は平日休日ともに94.6%もの生徒が日常的に使っていることになる。

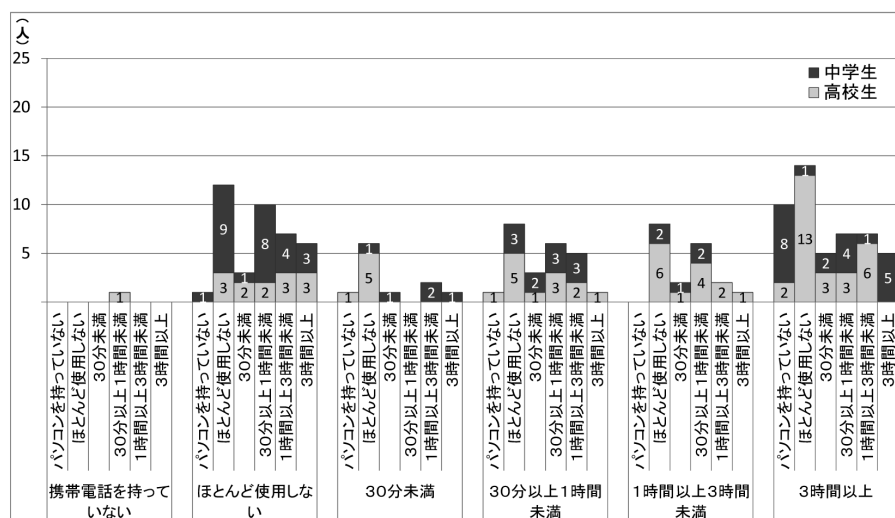
平日と休日で利用時間の長さを個人ごとに比較すると、休日の方が平日よりも長い生徒が40%程度であり、どちらも変わらない生徒が60%程度だった。

インターネットの利用目的は、携帯電話の場合はメールが多く、パソコンの場合は勉強のための調べ物と音楽などのダウンロードが多かった。携帯電話とパソコンの利用について、中高生で大きく異なったのは、遊びのための調べ物である。中学生がパソコンを使っているのに対して、高校生は携帯電話を使っている場合が多かった。これは、高校生の方がスマートフォンを持っている割合が多く、遊びの場合はスマートフォンで調べているからだと考えられる。内閣府の青少年のインターネット利用環境実態調査[6]によると、2012年11月現在で、携帯電話を持っている中高生におい

て、スマートフォンを持っている割合は、中学生が25.3% なのに対して、高校生は55.9% となっていることから分かる。



(a) 平日における1日当たりの利用時間別人数



(b) 休日における1日当たりの利用時間別人数

図1. 携帯電話・パソコンを使ったインターネット利用状況

4-2. 利用しているソーシャルメディア

インターネットにおいて、利用しているソーシャルメディア別の人数を図2に示す。なお、この質問では複数選択可で回答を求めている。

少なくとも1種類のソーシャルメディアを利用している生徒は81人(中学生36人、高校生45人)で無回答者を除いた135人中の60.0%(中学生57.1%, 高校生62.5%)

になる。最多で6種類を利用している生徒が3人おり、すべて高校生だった。4.1節で述べたように、高校生はスマートフォン所有の割合が多い。このことも手軽にソーシャルメディアを利用している割合が多い原因の一つだと考えられる。また、利用している81人の生徒の利用数は、平均2.54種類(中学生2.08種類、高校生2.91種類)であった。これらのことから、複数サービス利用者が多いことが分かる。

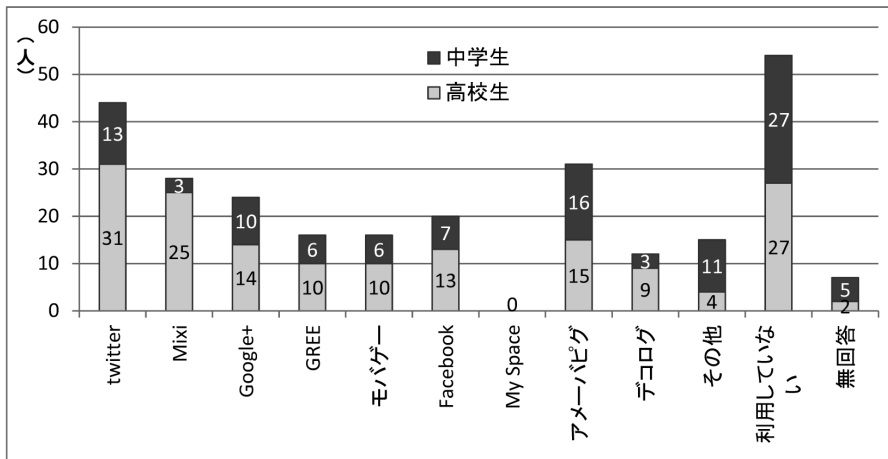


図2. 利用しているソーシャルメディア別人数

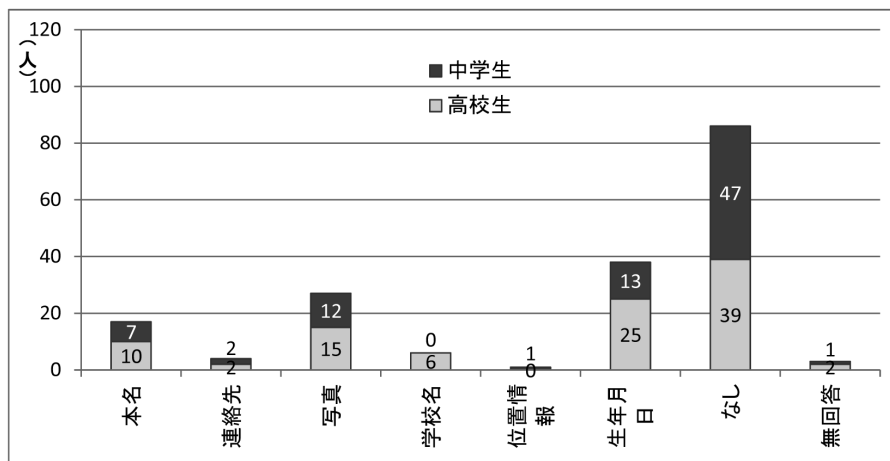
4-3. ソーシャルメディア上での個人情報の公開

ソーシャルメディア上における自分の個人情報の公開に関する状況を個人情報別の人数で図3に示す。これは、六つの個人情報に対して複数選択可で回答を求めている。選択肢の六つの個人情報は、対象が中高生であること、ソーシャルメディア上での公開ということ等を考慮して、筆者らが選んでいる。

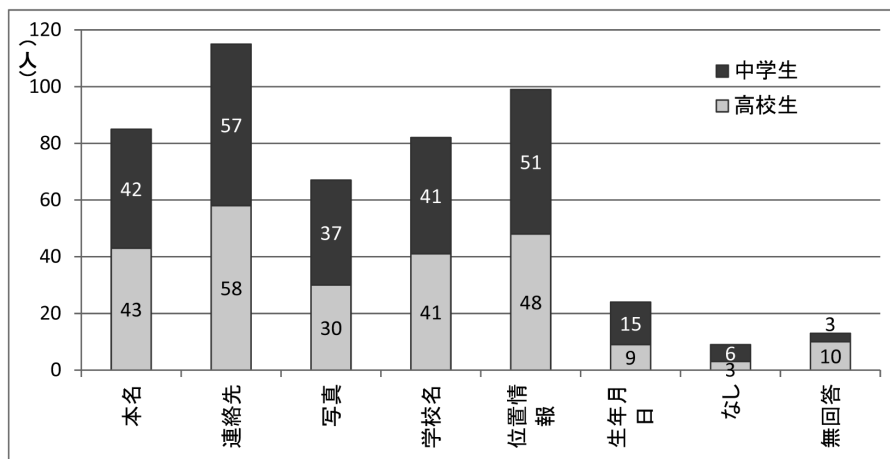
まず、図3(a)は、実際に公開している自分の個人情報の状況である。少なくとも一つの個人情報を公開している生徒は53人(中学生20人、高校生33人)で無回答者を除いた139人中の38.1%(中学生29.9%、高校生45.8%)になる。最多で四つの個人情報を公開している生徒が4人いた。

次に、図3(b)は、公開することに抵抗のある自分の個人情報の状況である。無回答者を除いた129人中、示した六つすべての個人情報に対して公開することに抵抗のあると答えた生徒は13人(中学生10人、高校生3人)で10.1%(中学生15.4%、高校生4.7%)になる。逆に、公開することに抵抗のあるものが一つもない生徒は9人(中学生6人、高校生3人)で7.0%(中学生9.2%、高校生4.7%)になる。これらから、個人情報公開の抵抗感の有無は生徒によって大きく異なることが分かる。

ほとんどの項目に対して、高校生の方が中学生よりも公開している人数が多く、逆に、公開することに抵抗のある人数は高校生の方が少ないかほぼ等しかった。また、中高生ともに、写真と生年月日については、多く公開しており、公開することに抵抗



(a) 実際に公開している個人情報別人数



(b) 公開することに抵抗のある個人情報別人数

図3. ソーシャルメディア上での個人情報の公開

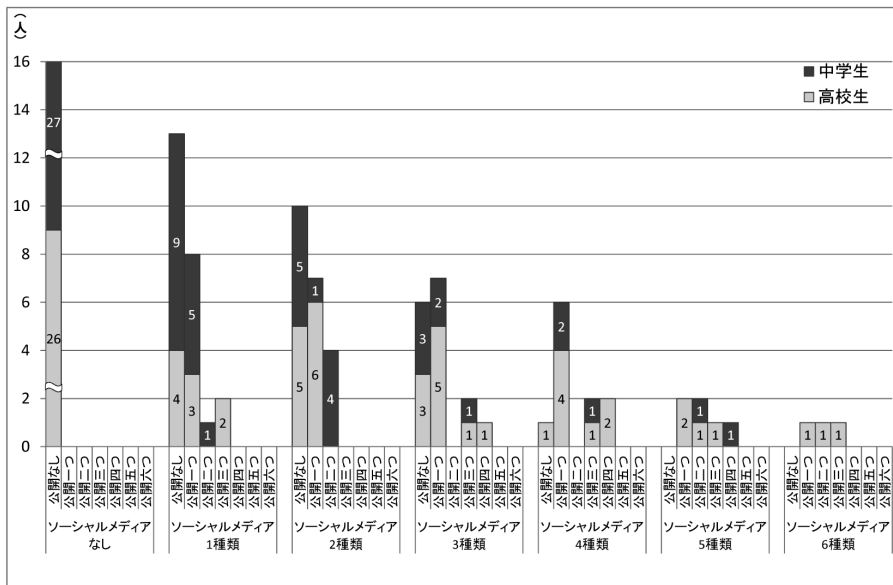
のある生徒が少なかった。

なお、個人情報には、1章で述べたように、一つだけで個人情報となるものと二つ以上で個人情報となるものがあるが、本研究においては、それらを区別せずに、中高生に関係する六つを同等に扱って調査している。また、個人情報を公開している生徒の中には、個人情報を保護するために、パスワード設定や公開を知人にのみとしている生徒がいた。特に高校生に多かったが、本研究では、そのことを考慮していない。個人情報の種類による定量評価が困難なため、本研究ではこれらを踏まえていないが、針谷らが示しているように、個人情報流出度を定量的に評価する〔7〕ことで、より正確に評価できる可能性がある。

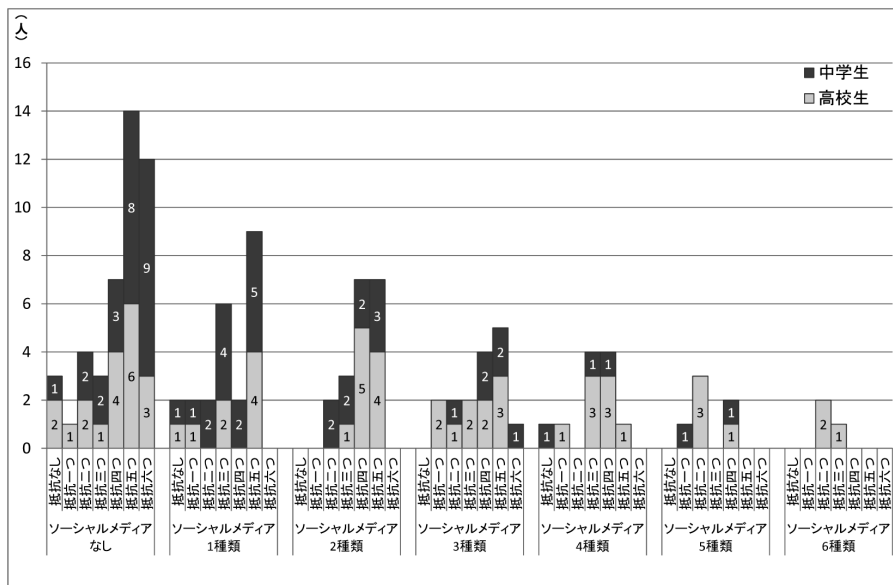
4-4. ソーシャルメディアと個人情報の関係

ソーシャルメディア利用と個人情報への意識との関係を調べるために、生徒ごとで、4.2節で述べた利用しているソーシャルメディアの種類数と、4.3節で述べた個人情報の公開数とでクロス集計を行った。その結果を図4に示す。

まず、図4(a)は、ソーシャルメディアの利用数ごとに、公開している自分の個人情報



(a) 実際に公開している個人情報数別人数



(b) 公開することに抵抗のある個人情報数別人数

図4. 利用ソーシャルメディア数と個人情報の公開数の関係

報の数に分けて、棒グラフで示している。なお、利用ソーシャルメディア数と公開している個人情報の数のいずれか一方でも無回答の8人を除いた134人(中学生63人、高校生71人)の回答を使っている。

利用ソーシャルメディア数が多い生徒は個人情報の公開数が多いと予想され、正の相関があることが考えられる。そこで、134人のアンケート結果に対して、両者の相関係数を求めると約0.63(中学生約0.67、高校生約0.60)で中程度の正の相関があった。したがって、利用ソーシャルメディア数が多い生徒は個人情報の公開数が多い傾向にあるといえる。なお、中学生の方が相関が若干強かった。

一方、図4(b)は、ソーシャルメディアの利用数ごとに、公開することに抵抗のある個人情報の数に分けて、棒グラフで示している。ここでは無回答20人であり、122人(中学生60人、高校生62人)の回答を使った。

利用しているソーシャルメディア数が多い生徒は公開することに抵抗のある個人情報の数が少なく、負の相関が予想できる。しかし、122人のアンケート結果に対して相関係数を求めると、ここでも中学生の方が相関が多少強かったが、全体で約-0.28(中学生約-0.31、高校生約-0.23)と弱い負の相関しかなかった。すなわち、ソーシャルメディアを利用していない生徒であっても、必ずしも個人情報を公開することに抵抗があるとはいえず、個人差があることになる。したがって、このような生徒が今後ソーシャルメディアを使った場合に個人情報をむやみに公開してしまう可能性がある。そのため、ソーシャルメディア利用の有無に関係なく、すべての生徒に対して個人情報を適切に扱うための情報モラル教育を行う必要がある。

5. ま と め

女子中高生対象のアンケートにより、インターネットやソーシャルメディアの利用状況を調査した。また、個人情報の公開状況や公開に対する意識を調査した。その結果、ソーシャルメディアを利用している生徒の方が個人情報を公開している傾向にあった。一方、個人情報公開に対する抵抗感には、ソーシャルメディアの利用状況にそれほど関係なく、個人差があることが分かった。そのため、ソーシャルメディアの利用状況に関わらず、すべての生徒に対して個人情報に対する意識を高めることができる情報モラル教育が必要である。

なお、パスワード設定の有無等による個人情報公開の仕方の違いを考慮したソーシャルメディア利用状況との関係を検討することが今後の課題である。

■参考文献

- [1] 総務省：“情報通信白書平成25年版”，第4章第3節インターネットの利用動向，日経印刷(2013)
- [2] 消費者庁：“個人情報の保護に関する法律”，
<http://www.caa.go.jp/seikatsu/kojin/houritsu/> (参照日 2013. 11. 1)

- [3] 佐藤和紀, 安井良介, 針谷友彰, 金井敦, 廣田啓一ほか: “ブログにおける個人情報漏えいの状況調査”, 情報処理学会研究報告, 2009-EIP-43(1), pp. 1-8 (2009)
- [4] 北野光一, 寺口敏生, 田中成典, 大谷和史, 小泉陽子: “SNS における個人情報の保護に関する研究”, 情報処理学会全国大会講演論文集, pp. 543-545 (2011)
- [5] 石本諒, 藤村裕一: “ソーシャルメディア利用者の意識に関する研究”, 日本教育工学会研究報告集, vol. 12, no. 5, pp. 219-224 (2012)
- [6] 内閣府: “青少年のインターネット利用環境実態調査”, 第 1 章第 1 節携帯電話の利用状況, <http://www8.cao.go.jp/youth/youth-harm/chousa/h24/net-jittai/pdf-index.html> (参照日 2013. 11. 1)
- [7] 針谷友彰, 佐藤和紀, 安井良介, 金井敦: “ブログにおける個人情報漏えいモデル”, 情報処理学会研究報告, 2008-EIP-41(12), pp. 65-70 (2008)